

マニュアルの構成について

- 1 総論
- 2 各論
- 3 Q&A の 3 本柱はどうか

各論のイメージ

- ・ 柏市の「人生の最終段階における意思決定支援」

私たち安城市は何を入れていくか（案）

- ・ 意思の断片（ピース）を集めよう
- ・ 日々の生活支援の中から本人の意思を知ろう
- ・ 意思の断片（ピース）をつないでその人を知ろう
- ・ 意思確認
- ・ チーム間の情報共有と病院との連携
- ・ 家族間の調整
- ・ 代弁者
- ・ 支援のタイミング
- ・ 支援者の教育
- ・ 市民啓発
- ・ 意思決定
- ・ 疾患別

<参考>

安城市の状況（2020 年 6 月実施アンケート結果より）

（1）看取りの際に患者（利用者）と話し合っている内容（複数回答）

選択肢	人数	%
過去の医療・ケアに関する経験について	148	40%
現在の健康状態の不安や価値を置くところ	249	67%
今後の人生の目標	225	61%
判断できなくなった時に備えて	123	33%
いのちに対する考え方を探索する	132	36%
代弁者について	110	30%
今後、どのような治療や生活を望むか	277	75%
以上得た情報について、関係者と共有している	253	68%

※実数 371 人

(2)(1) を話す時に難しいと感じること (複数回答)

選択肢	人数	%
話すタイミングがわからない	123	33%
関係者と共有するのが難しい	72	19%
相手を不安にさせるか心配	207	56%
時間的に難しい	88	24%
進め方や方法がわからない	64	17%
深刻な話題は苦手	48	13%
記録に残すことが難しい	50	13%
コミュニケーション力の不足	58	16%
その他	44	12%

※実数 371 人